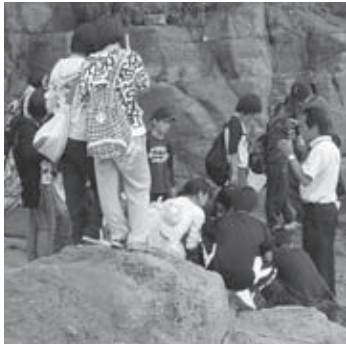


市政ニュース

山陰海岸ジオパークを楽しく学ぶ！

子ども夏期大学開催、「玄武洞で大発見」刊行

子ども夏期大学開催



▲猫崎半島で化石を観察する中学生

子ども夏期大学「めざせ！子どもジオ博士！」を、8月18日に小学4年生から6年生を対象とし、22日は中学生を対象に開催しました。子どもたちは、市内のジオサイトを巡り、新しい視点で地域を見つめ、学習することで、ふるさとの新たな魅力を発見しました。

当日は、兵庫県立大学自然・環境科学研究所ジオ環境研究部門特任助教の松原典孝さんの講義を受け、但馬国府・国分寺館の見学の後、神鍋山噴

火口、猫崎半島、玄武洞のガイドウォークを行いました。子どもたちは、ジオサイトの写真日記を作成するなど、意欲的に学びました。

■マンガ本「玄武洞で大発見」刊行

山陰海岸ジオパークの見どころである天然記念物「玄武洞」は、世界的な研究・発見の地であり、地球科学の分野では有名ですが、一般にはあまり知られていません。そこで、市では、小学校高学年以上を想定して、玄武洞の科学的価値や玄武岩の名前の由来などをマンガで分かりやすく説明した本を作成しました。



▲マンガには「玄さん」も登場

第1回竹野浜

オープンウォータースイミング大会開催

8月21日、竹野浜で、第1回竹野浜オープンウォータースイミング大会が開催され、1キロメートルの部と2・5キロメートルの部に、総勢140人が参加しました。

当日は曇りで、気温22度、水温26度と競技には良いコンディションでしたが、沖は波が高い状況でした。出場者の皆さんは、声援を



▲勢いよく泳ぎ出す2.5kmの部のスタート

受けながら奮闘し、成功裏に大会を終えました。

ホテルビジネスイン豊岡と避難場所の提供に関する協定

8月29日、市とホテルビジネスイン豊岡(泉町)との間で「災害時における避難場所提供に関する協定」を締結しました。

同ホテルでは、81人の収容が可能で、その他のスペースも含めるとそれ以上の人数の収容も期待できます。災害時、市役所周辺地域の避難場所確保にあたって、心強い協定となります。

また、9月1日には、京都府与謝野町と「災害時にお



▲ホテルビジネスイン豊岡の代表奥田輝司さん(左)と協定を交わす中貝市長

る相互応援に関する協定」を締結しました。大規模災害時は、資機材や物資提供、職員応援、被災者受け入れなどを相互応援します。

主な市政の動き

8月

- 9日 夏休み子ども防災監養成講座(11日)
- 20日 KTR豊岡市民号
- 28日 第32回兵庫神鍋高原マラソン全国大会
- 29日 ホテルビジネスイン豊岡と「災害時における避難場所提供に関する協定」締結

9月

- 1日 京都府与謝野町と「災害時における相互応援に関する協定」締結
- 2日 市議会定例会開会(28日)
- 3日 台風12号に係る豊岡市災害対策本部設置(城崎・日高総合支所でも設置)
- 4日 豊岡市災害対策本部廃止(城崎・日高総合支所でも廃止)
- 5日 特急こうのとり誕生記念事業「豊岡市限定チヨロQプレゼントキャンペーン」(30日)
- 6日 まちの救命ステーション(AED)標章交付式
- 市内最高齢者と最高齢夫婦を祝福訪問

豊岡駅前のアイティに市民の憩いエリア整備

人工芝エリア「しばっこ広場」が完成

8月18日、アイティ7階の「屋上スカイドーム」に人工芝

エリア「しばっこ広場」が完成し、竣工式を開催しました。

同階には、子育て総合センターがあり、親子が学び・遊ぶ場となっています。

この広場は、同センターの利用者をはじめ、市民の皆さんが憩い、くつろぐことのできる場所として整備したものです。

です。竣工式の後には、子育て総合

センターボランティアグループ「おたすけ隊」の皆さんが、アンパンマンの「サンサン体操」を参加者と一緒に行いました。子どもたちも思い思いに楽しんでいました。

《しばっこ広場》の面積》

270平方メートル(18メートル×15メートル)



▲しばっこ広場で元気に遊ぶ子どもたち

市内小学校児童が東日本大震災被災地支援

「届けたい お米と心を

東北へ」会議の活動

8月22日、「届けたい お米と心を 東北へ」の会議を新田地区公民館で開催しました。

この会議は、平成16年の台風23号を体験し、多くの方々

に支えられた経験を持つ新田小学校5年生の児童が、東日本大震災の被災者にお米を送ることを考え、お米を作っている市内の小学校に呼び掛けて開催したものです。

当日は、呼び掛けに賛同した市内14小学校の児童代表者が出席し、被災地のビデオ視

聴やグループ討議を行いました。さらに、活動を進めていくにあたり、スローガンを決定しました。

《3つの行動スローガン》

- ① 届けよう「元氣」と「安全・安心」でおいしいお米
- ② 私たちの心お米に託して復興を目指し合わせよう
- ③ 復興を目標し合わせよう一人一人の力 集めようみんなの笑顔

また、9月2日には、活動に賛同した小学校の児童代表



▲児童代表者が中貝市長に協力依頼

者が中貝市長を訪問し、お米の届け先と搬送方法について協力を依頼しました。

中貝市長の徒然日記 ④

被災地への旅 (3)

8月、新潟県三条市へ市職員研修の講師として行ってきました。会場には、テレビや新聞の記者が来ていました。不思議に思っていると、20人ほどの方が前に出てこられました。福島県内から三条に避難してこられた方々でした。

3月下旬、三条の國定市長から電話が入りました。「学校が始まるが、ランドセルのな

い子がいる。もらえないか」「ピカピカのランドセルでさ。豊岡はかばんの産地ですが、んじょうしようがっこうにランドセルは作っていません。ゆうがくしました。おこめも靴工業組合の方々に事情を話すと、さっそく富山の会社から仕入れ、寄贈してくださいました。中学生には、靴協会からいただいたリユックサックを送りました。

6月、今度は、避難所を出てアパートに移られた方々に、豊岡の米、野菜などを送りました。米は米穀小売商組合の方々の寄付でした。

豊岡市長が三条に来るのであれば、そのお札を直接伝えたい、とわざわざ会場に來ら

れたのです。手紙と手作りの品を持参しておられました。

三条市職員と記者たちが見守る中、2人の方が代表して感謝の言葉を述べられました。こんな手紙もありました。下の娘が地元の小学校に入学する予定であったこと、何も持たずに避難したこと、不安な時期に豊岡から新品のランドセルが届いたこと。「こらえ

も止まりませんでした」

手紙の多くに、南相馬市の住所が書いてありました。南相馬。そこそが私の住む所。思わず胸が熱くなりました。

